

マーケットの動き（2022年9月26日～9月30日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。英国の経済政策やBOE（英国中央銀行）の英国長期国債買い入れの表明により英国長期金利が乱高下したことから、米国長期金利は週を通して変動率の高い動きとなりました。FRB（米国連邦準備制度理事会）高官らの金融引き締め継続に前向きな発言や、インフレ加速を示した米国主要経済指標も米国長期金利の上昇要因となりました。ドイツ国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2022年9月）

長期金利は、米国では上昇圧力がかかりやすく、欧州（ドイツ）ではレンジ内で推移

米国：景気の先行きに対する過度に悲観的な見方が一服する中、堅調な労働市場や根強い高インフレを背景としたFRB（米国連邦準備制度理事会）による金融引き締め姿勢が継続することで、長期金利は上昇圧力がかかりやすい状況が続くとみえています。

欧州：ロシアとの関係悪化による資源価格上昇やECB（欧州中央銀行）による利上げペース加速が懸念される一方、景気後退も意識されやすく、ドイツ長期金利はレンジ内での推移を予想しています。

	9月30日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.80	0.10	0.69	1.44	2.27
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	517.84	0.65%	▲1.05%	0.74%	2.23%

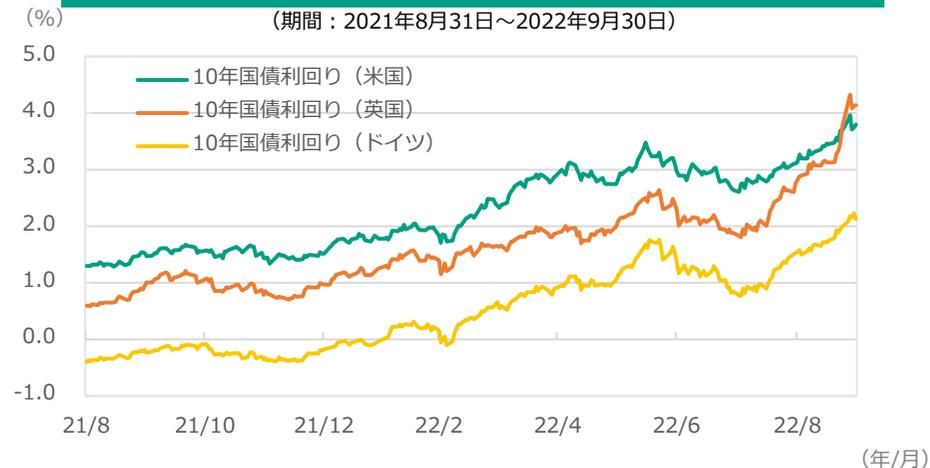
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202209_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2021年8月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成